

経済的にも政治的にも、日本をめぐる状況は厳しさを増している。民間教育界においてもそれは例外ではなく、継続的な成長を実現するためには明確でブレのない戦略が必要だ。しかし、具体的にそれはどうあるべきか……。今回、eisu groupの山本代表のお話の中には、この問題に対する一つの解答例が示されているように思われる。私塾がめざすべき「オンリー・ワン戦略」とは何か？ 山本代表に具体的にお聞きする。

教育の本質に根差した「オンリー・ワン戦略」

市場に「オンリー・ワン」のポジションを築く

——シャープの経営的苦境を始め、日本企業の置かれている状況は樂觀を許さないように見えます。この状況に対する山本代表のご見解をお話してください

現代の日本企業——特に製造業——の陥っている苦境は、変動を続ける社会情勢に適

応していくことの困難さを思い知らされます。かつての日本企業は、「いいものをより安く」という分かりやすい方向性のもとに成長を続け、海外市場を席卷しました。ところが現在の日本企業は多くは、より安価なコストで労働力の調達が可能

なアジア企業にそのお株を奪われ、混み合った市場に否応なく巻き込まれ、価格でしか差異が見いだせないような同質的な市場で競争することを強いられています。その結果、利益率を低下させ、成長はおろか存続さえ困難な局面に追い込まれているように見えます。

しかしこうした場合、サービスの同質化を前提とした過当競争による利益率の低下は、日本国内の様々な市場においても同様に経験される現象です。もちろん、私たち民間教育界も同様ですね。しばらく前から、私たち塾業界においても、価格競争による企業体力の消耗戦がごく普通になっています。もちろん消費者にとって、価格低下それ自体は歓迎すべきことでしょう。ところが本質的な問題は、その背景にあります。つ

まり、塾業界における商品・サービスの同質化が進行しており、価格でしか差別化ができなくなりつつあるという実態です。

教育業界がデフレ圧力に押されて価格競争のみに走れば、結局は同質的な人間による同質的なサービスが全てを支配することになります。しかし、それは教育の破滅を意味します。子どもたちが、人と違う魅力や個性を持たず、尊敬の念を持ってない人を指導者と仰ぐことは、未来永劫決してありえないからです。ならば、教育に

対する不変のニーズをがっちり掴み、過当競争状況から脱却することが、民間教育にとっての唯一の活路となるはず。その活路とは、どのようなものですか？

具体的には「ポジション戦略」です。展開する地域で疑念的に独占的な状況をつくり出し、独自の位置を築くことで利益率を高める。私はこれを「オンリー・ワン戦略」と呼んでいます。これは、地域の教育に対する不変のニーズに応え、明確なアイデンティティを持ったブランドを築くことです。ブランド・マネージメントを徹底し、「オンリー・ワン」のポジションを展開地域において確立することが必要でしょう。このためにスタッフのモラルとマナーの一層の向上はもちろんですが、私塾ならではの新しいサービスの開発も大切です。



eisu group
山本 千秋 代表

「受験英語」と「ネイティブ英会話」の乖離を克服する新しい英語教育メソッド

—eisuで現在開発中とお聞きしている英語教育メソッドも、そうした「オンリー・ワン戦略」に基づく新規サービスと考えるとよろしいのでしょうか？

その通りです。このたび日本の英会話教育のスペシャリストであり、二〇〇タイトル以上、累計三〇〇万部を超える英語教材を執筆されているデイビッド・セインさんとともに、新しいオンリー・ワンの英語教



育システム「デイビッド・セイン英語ジム」を立ち上げることになりました。英語教育の現状は、受験・アカデミック英語に特化したものとネイティブ英会話に特化したものに二分化しており、両者は両立しにくいもの、という認識が市場を支配しています。「受験英語は実際の会話には役立たない」という点がやたらに強調され、それをテコに英会話教育市場が形成されている状態です。これに対し、デイビッド・セイン英語ジムは「受験英語・ネイティブ英会話を同時にマスターする」ことをテーマにしている点が最大

優れた指導者と環境、そして子どもたち自身の意欲が教育を成功させる

テル東京)でもセインさんより発表していただきますから、ご興味のある向きはぜひご参加ください。

豊かな社会を創る原動力は教育！

—デイビッド・セイン英語ジムはまずいつ、どこで開設されるのですか？
ジムをイメージした「オンリー・ワン」を印象付ける新しいタイプの学習空間をつくりたい。具体的には、東京の紀尾井町に「デイビッド・セイン英語ジムを柱とした新教場(ジム)を来春

の特徴です。受験でも、近年リスニングがより一層重視されています。一方、英会話において

も、そこに知的な内容が伴わなければ、あえて学ぶ意味がありません。その根本は決して矛盾するものではないのです。デイビッド・セイン英語ジムは、「対話IIダイアログこそ言語習得の基盤である」との認識から、徹底した対話型トレーニングを通じて、「問いかけに対する即答力を鍛える」ことに特化します。またその過程で、各学年に即した語彙や文法も自然に身につけられるという、今までにないメソッドです。高校・大学受験はもちろん、英検やTOEIC等にも直接役に立つ

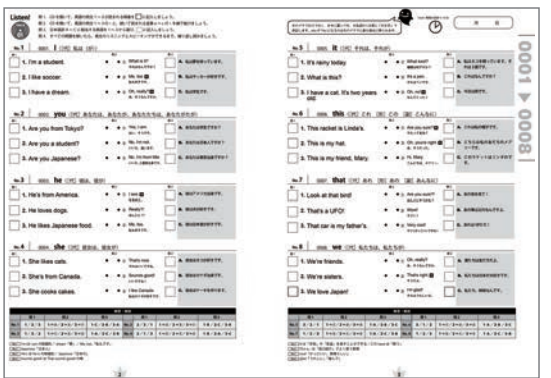
実益性の高い学習法でもあります。セインさんは日本で三〇年近く英語教育に携わっており、その豊富な英語

みたい、というのが私の想いです。

—今年は第二回目の「全国小・中学生学力カップ2012」が開催され、参加者数がさらに増えたとお聞きしています。第三回目の準備も進行中だそうですね。

はい、まさに全国の塾様のご協力の賜物であり、感謝申し上げます。全国小・中学生学力カップ2012は、今年6月10日に全国五七九の会場で開催され、小四〜中三まで全六学年で二五、二〇六名のご参加をいただきました。7月15日に帝国ホテル東京で行われた金賞受賞者表彰式も素晴らしいかったです。そのダイジェストは学力カップのウェブサイトでも閲覧できますから、ぜひご覧ください。

第三回目に当たる「全国小・中学生学力カップ2013」は、2013年2月1日(金)より生徒さんの参加申込受付を開始し、同年6月9日(日)に開催されます。金賞受賞者表彰式は7月14日(日)、今年と



1万単語・3万例文を網羅した専用テキストは、全12巻で小学生から高3までをカバー(導入編としてプラス2巻も用意)。ネイティブの音声を繰り返し聴きながら、クイズ感覚で問題を読み・聴き進めるといった、まったく新しいタイプの教材だ。「実際にネイティブとのやり取りで使える英語」をベースとしているのが最大の特徴。リスニングとシャドーイング(発音を真似ること)の繰り返しにより、高校受験・大学受験はもちろん、英検、TOEFL、TOEICといった検定にも対応できる英語力が身につく。(画像はテキストのイメージです)詳しくは当誌巻末(表3)をご覧ください

教授経験をすべて、今回のメソッドに集中投下してくださいます。

—受験とネイティブ英会話の両方に役に立つ英語教育というのは、素晴らしいですね。

はい。さらにこのメソッドの特徴を挙げれば、「飛び級OKの自学自習」をベースとすること、しかも塾が運営することで「学ぶ環境とコンシェルジュ(世話役)のフォロー」——ただし教務的に指導する役ではなく、あくまで自学自習をサポートするホスト役の

同じ帝国ホテル東京、場所は孔雀南の間で行います。13年も毎日新聞社と朝日新聞社のご後援をいただくことが決定しています。生徒用パンフレットとポスターも既に完成させ、無償で参加塾様に頒布する準備を整えるなど、13年の成功に向けて早くから活動を開始しています。ぜひお気軽に学力カップ運営委員会事務局にお問合せください。

最後に、業界の皆さんへメッセージをお願いします。教育の本質は不変です。つまり、信念と愛情に溢れた優れた指導者、そして学びに集中できる優れた環境のもと、子どもたちが自学自習の意欲を保ち続けられ、必ず良い結果が導かれるということ。この変わるものないニーズに込め、継続的な成長を続けるためには、他では得られない「オンリー・ワン」の価値を子どもたちに提供することが大切です。子どもたちの成長、そして民間教育の発展のために、私たち



2012年7月15日金賞表彰者授賞式の記念撮影。誇らしげにカップを掲げる子どもたち。

日本全国の小学4・5・6年生・中学1・2・3年生対象
第三回 全国小・中学生学力カップ 2013
開催日: 2013年7月14日(日) 12:30-15:30
会場: 帝国ホテル東京 孔雀南の間
参加費: 2,000円(税込)
申し込み: http://www.gk-cup.jp

学力カップのお問合せ・参加お申込み
全国小・中学生学力カップ 運営委員会事務局
TEL 03-3235-0553 (月曜~土曜 11:00~17:00)
FAX 03-3235-0554
学力カップウェブサイト
http://www.gk-cup.jp/

学力カップのお問合せ・参加お申込み
全国小・中学生学力カップ 運営委員会事務局
TEL 03-3235-0553 (月曜~土曜 11:00~17:00)
FAX 03-3235-0554
学力カップウェブサイト
http://www.gk-cup.jp/